

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年3月1日

配布数 5

回収数 5

事業所名 アートチャイルドケアSED SCHOOL武蔵新城

	チェック項目	割合(%)			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ	無回答		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	80.0%	20.0%	0.0%		
	2 職員の配置数は適切である	60.0%	40.0%	0.0%	基準は満たしているが、職員数が少ないときは職員みんなで協力できるように工夫しています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	40.0%	60.0%	0.0%		現在、保護者様からも多くは配慮が適切とご意見をいただいております。今後は、利用者皆様にご協力いただけるよう努力いたします。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	60.0%	40.0%	0.0%	セッションの合間や終了時間など、片付けの時間を取っているが整理できていない。	今後は、職員間で相談・工夫して教材の配置や、ラベルを張る等の整理を行います。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%	0.0%	0.0%		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80.0%	0.0%	20.0%		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80.0%	20.0%	0.0%	保育園同様のテーマ別研修を行いスキルアップに努めています。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	80.0%	20.0%	0.0%	全職員でよく相談した上で、最終的な計画を作成しています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	60.0%	40.0%	0.0%		アセスメントツールとしてJIS-R、発達検査の結果を共有して、アセスメントを行うよう考えています。
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%	0.0%	0.0%		
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100.0%	0.0%	0.0%		
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	60.0%	40.0%	0.0%	できるだけ相談しながら行うよう努めています。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%	0.0%	0.0%		
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	0.0%		
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%	0.0%	0.0%	同じ時間で行われるプログラム内容で関連性のあるものや訓練室の使い方を事前に相談しています。	
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	80.0%	20.0%	0.0%	・セッション終了後には職員間での振り返りをしています。	
関係機関や保護者と	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	0.0%		
	19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	80.0%	20.0%	0.0%		
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60.0%	40.0%	0.0%		
	21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100.0%	0.0%	0.0%	日々の支援を優先しながらお子様の状況に応じて、外部機関と協議の上、対応しています。	
	22 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100.0%	0.0%	0.0%		
23 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	20.0%	80.0%	0.0%			

この連携	24	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60.0%	40.0%	0.0%		
	25	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	20.0%	80.0%	0.0%		
	26	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100.0%	0.0%	0.0%		
保護者への説明責任等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100.0%	0.0%	0.0%		
	28	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100.0%	0.0%	0.0%		
	29	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100.0%	0.0%	0.0%		・定期的ではないが、ご相談を頂いた際などには、その都度対応しています。
	30	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	80.0%	20.0%	0.0%		・必要な場合は適宜相談に応じています。
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	60.0%	40.0%	0.0%		会報は掲示して利用者に発信しています。
	32	個人情報の取扱いに十分注意している	100.0%	0.0%	0.0%		
	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.0%	0.0%	0.0%		
非常時等の対応	34	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100.0%	0.0%	0.0%		
	35	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100.0%	0.0%	0.0%		
	36	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100.0%	0.0%	0.0%		
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100.0%	0.0%	0.0%		
38	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80.0%	20.0%	0.0%			